

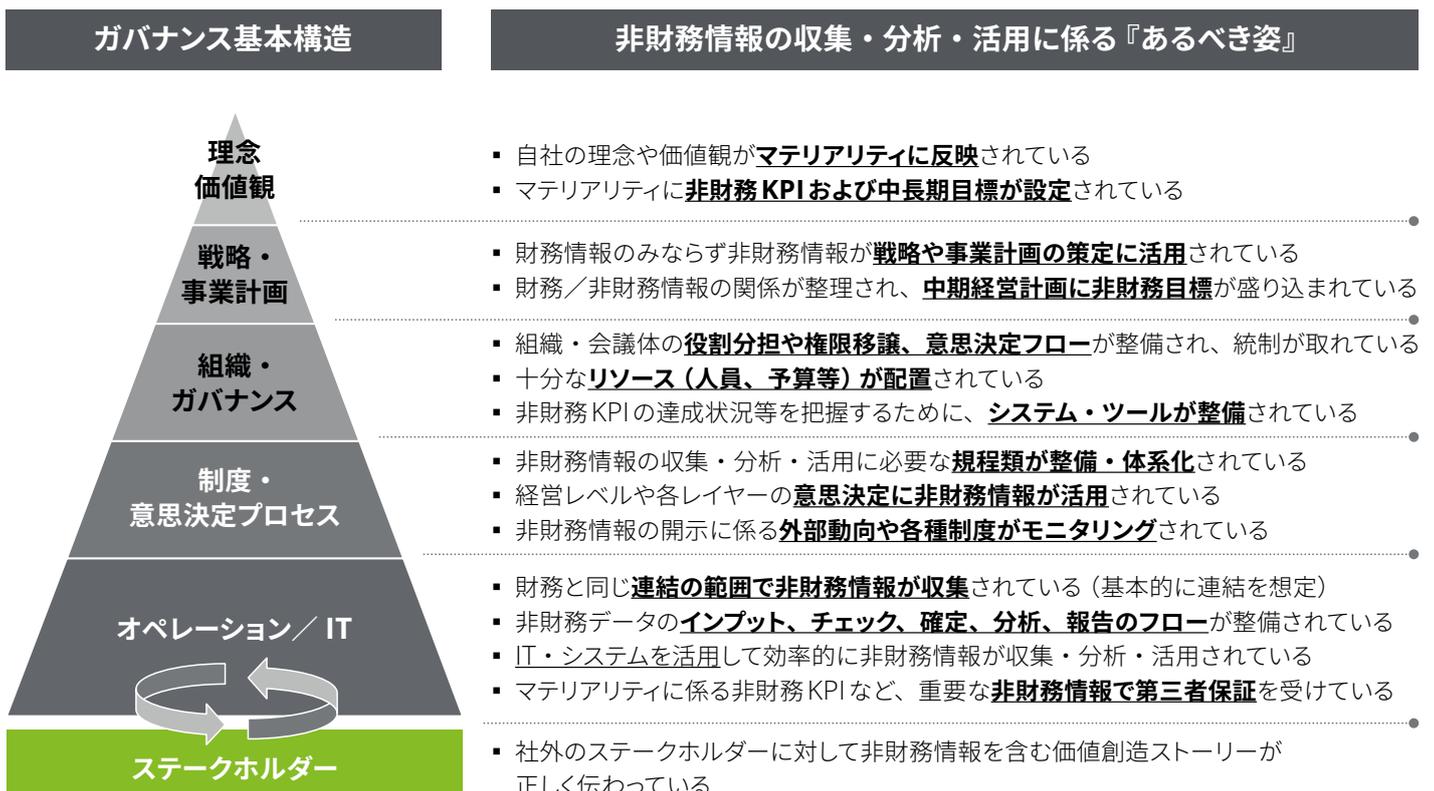
GHG 排出量可視化・削減支援サービスのご紹介

非財務情報開示の標準化・義務化がグローバルで急ピッチで進む中、企業には非財務情報を収集・分析・活用する体制整備が求められています。デロイト トーマツは、デロイトの有する専門性と総合力をグローバルレベルで結集し、GHG 排出量を把握・削減を実現していくために、SAP 製品を活用したソリューションを提供してサステナビリティ経営の高度化をご支援します。

今、サステナビリティ経営に向けて求められること

- IFRS 国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）が全般的要求事項・気候関連の初年度開示を2025年に定めているのを皮切りに、順次、米国・欧州においても開示・保証の義務化が始まります。この契機をとらえ、企業は単なる開示対応にとどまらず、サステナビリティ経営の高度化に向けた取り組みを推進するべきとデロイト トーマツは考えます。
- サステナビリティ経営の高度化とは、企業理念・ビジョンから下流のオペレーションに至るまで、中長期的な時間軸を含んだサステナビリティの観点（リスク・機会の特定、重要課題の特定、目標設定等）が反映され、体制が構築・運用されることを指します。非財務目標の経営への活用のためには、財務情報と同じ範囲・スピード・精度で非財務情報を収集・分析・活用できることが不可欠です。

非財務情報の収集・分析・活用に必要なガバナンス構造



サステナビリティ経営高度化の実現を支援するデロイト トーマツのサービスメニュー

- デロイト トーマツは、デロイトの有する専門性と総合力をグローバルレベルで結集し、サステナビリティ経営高度化の実現支援を含めた幅広いサービスメニューを展開しております。
- サステナビリティ・気候変動領域においては、グループ全体で高度な専門性と総合力を有し、それらをグローバルレベルで結集することでサステナビリティ経営の高度化を目指したサービスを提供します。グループ横断で連携することによって、サービス範囲は戦略、経営管理・開示、トランスフォーメーションの各領域を包括的にカバーします。そのため、デロイト トーマツではサステナビリティ経営に関して、企業に向けたEnd to Endでの支援を提供することが可能です。

サステナビリティサービス全体におけるデロイト トーマツのケイパビリティ

高度な専門性

サステナビリティ・気候変動 (S&C) 領域における技術や制度に関する知識、深い業界理解など、高度な専門性を有するプロフェッショナルの力を結集します。

ビジネスの垣根を超えた総合力

「監査・保証業務」、「リスクアドバイザリー」、「コンサルティング」、「ファイナンシャルアドバイザリー」、「税務・法務」のファイブビジネスが専門領域を超えて結集します。

グローバル連携

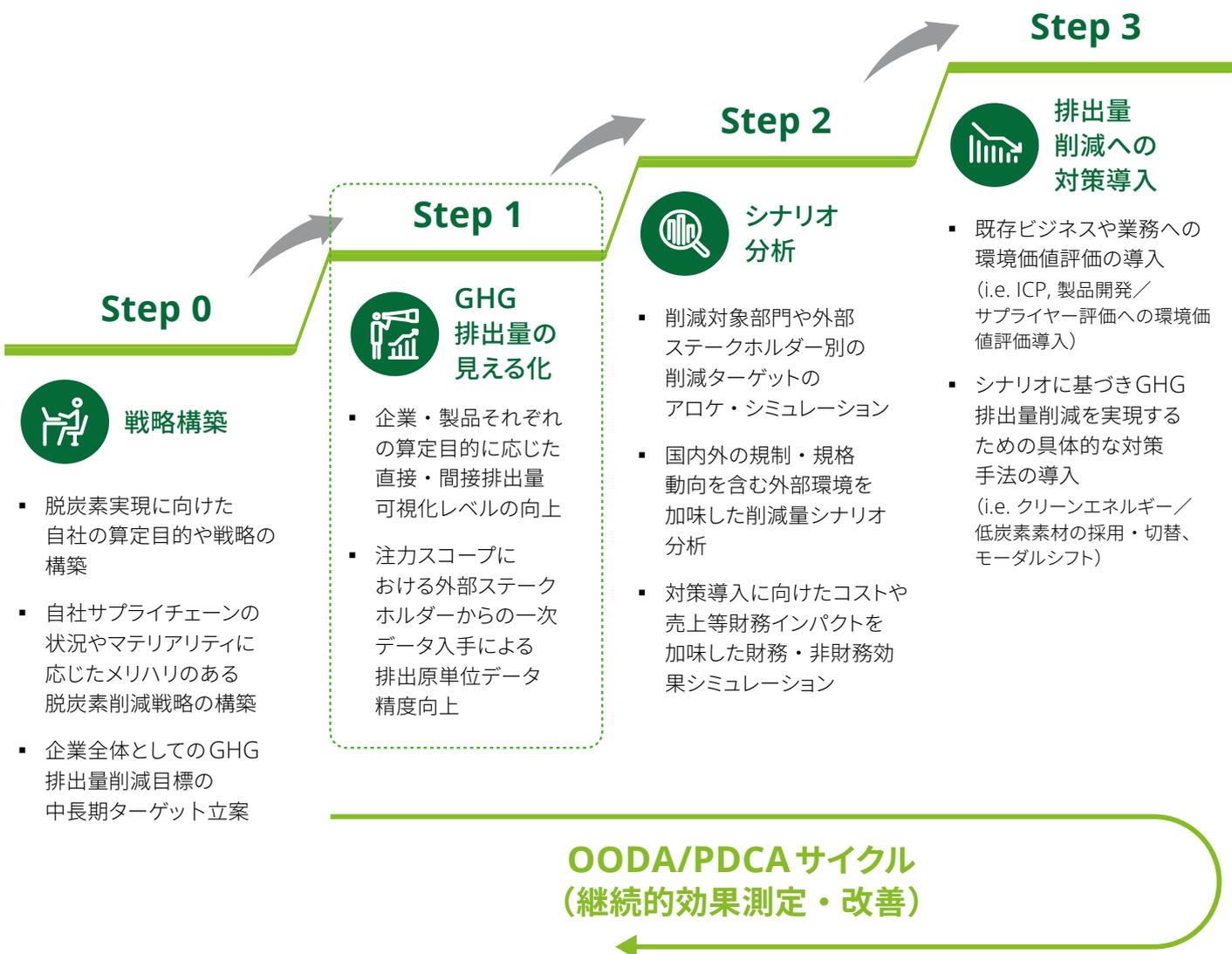
SCIを起点として、デロイト グローバル ネットワークの相互連携を促進し、国内に留まらず、グローバルかつ最先端の知見を結集します。

Sustainability & Climate 関連主要サービスマップ



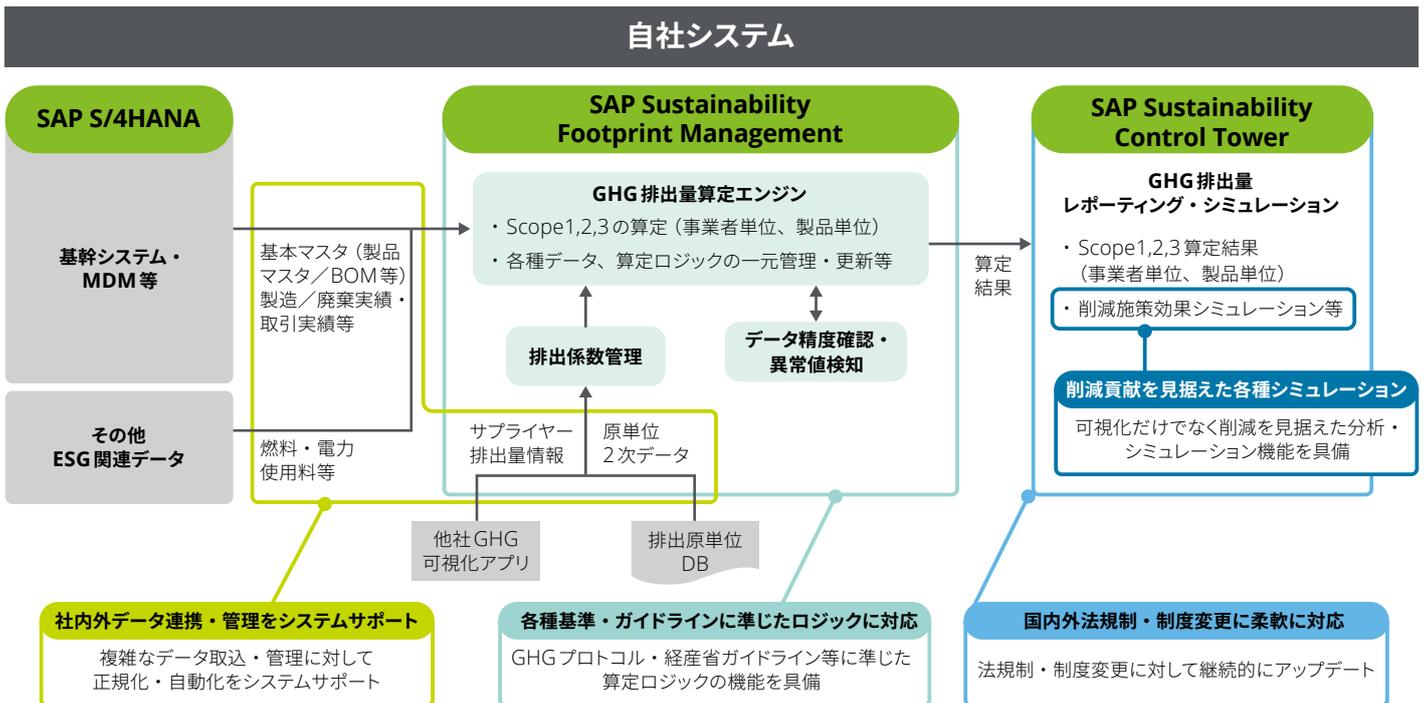
GHG 排出量の算定・削減の実現アプローチとプラットフォームの必要性

- カーボンニュートラルに向けてはGHG 排出量の可視化・分析・削減策の実施の3ステップをOODA/PDCA（継続的効果測定・改善）サイクル化する必要があります。しかし、3ステップをサイクル化してGHG 排出量削減をしていくには排出量の算定、開示、評価方法、事業計画への織り込み、サプライヤーとの連携といった様々なテーマがあるため、すべてを一足飛びに実現していくのではなく、段階的にステップアップしていく事が重要になります。
- また、GHG 排出量削減に向けて“見える化”は脱炭素社会実現への1stステップであると同時に、多くの企業が“見える化”に向けた取り組みに着手し始めています。しかしながら、多くの企業が可視化に取り組む中、膨大なデータの集計・管理や外部ルールに準拠した排出量算出・開示の課題に直面しており、継続的に取り組んでいくためにはデジタルプラットフォーム基盤の構築が必要不可欠だと考えます。



デロイト トーマツが考えるGHG 排出量管理機能アーキテクチャ

- GHG 排出量を可視化するためには基幹システムのマスタおよびトランザクションデータが必要であり、GHG 排出量の可視化の取り組みにおいて基幹システムの知見が不可欠です。特に、基幹システムとして多くの企業で導入されているSAP S/4HANAにおいて、デロイト トーマツはグローバルを含めた豊富な導入実績を有しており、導入実績に基づく知見とSAPソリューションを提供します。
- また、SAPからリリースされた企業のサステナビリティ経営を支える製品を含む一気通貫型のソリューションを提供することで、企業のサステナビリティ経営における業務オペレーションの構築をご支援します。



デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイトネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人 (有限責任監査法人トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社、デロイト トーマツ 税理士法人、DT 弁護士法人およびデロイト トーマツ グループ合同会社を含む) の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のグローバルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスクアドバイザー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市に約1万7千名の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト (www.deloitte.com/jp) をご覧ください。

Deloitte (デロイト) とは、デロイト トウシュ トーマツ リミテッド (“DTTL”)、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人 (総称して “デロイト ネットワーク”) のひとつまたは複数を指します。DTTL (または “Deloitte Global”) ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課すまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは DTTL のメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市 (オランダ、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む) にてサービスを提供しています。

Deloitte (デロイト) は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザー、リスクアドバイザー、税務、法務などに関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500® の約9割の企業や多数のプライベート (非公開) 企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters” をパーパス (存在理由) として標榜するデロイトの約415,000名の人材の活動の詳細については、(www.deloitte.com) をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、DTTL、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約 (明示・黙示を問いません) をするものではありません。またDTTL、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理のいづれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生し得る損失および損害に対して責任を負いません。

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited

© 2023. For information, contact Deloitte Tohmatsu Group.



IS 669126 / ISO 27001



BCMS 764479 / ISO 22301